

## 【実施範囲】

福島県、宮城県、茨城県、  
栃木県、群馬県の全域  
及び岩手県、千葉県等の一部

## 【測定地点】

約600地点

## 【核種分析】

<試料>  
水質、底質、  
環境試料(土壌)

## &lt;対象核種&gt;

放射性ヨウ素  
放射性セシウム  
放射性ストロンチウム（一部底質のみ）

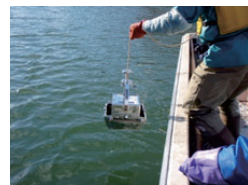
## 【頻度】

汚染状況等に応じて、1～6か月に1回の頻度で調査。

環境省ホームページ [http://www.env.go.jp/jishin/monitoring/results\\_r-pw.html](http://www.env.go.jp/jishin/monitoring/results_r-pw.html)



(河川・水質)



(湖沼・底質)

福島県を中心に、宮城県、茨城県など、放射性物質による汚染の懸念がある地域の河川、湖沼などにおいて、モニタリングが実施されました。

2013（平成25）年度は、約600地点でモニタリングが実施されており、水などに含まれる放射性ヨウ素、セシウム、ストロンチウムの分析が行われました。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日

## 関連Q&amp;A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA6 河川・湖沼のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか
- ・3章 QA13 ストロンチウム90はどのように測定しているのか教えてください
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA22 ストロンチウム90が、福島第一原発事故の前から日本にあったと聞いたのですが本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか